

マグロ・カツオを集めて獲る -中層型浮魚礁を使った沖合漁場造成事業-

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-07-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 佐谷, 守朗
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010364

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



マグロ・カツオを集めて獲る

－中層型浮魚礁を使った沖合漁場造成事業－

佐谷 守朗

開発調査部 開発調査三課

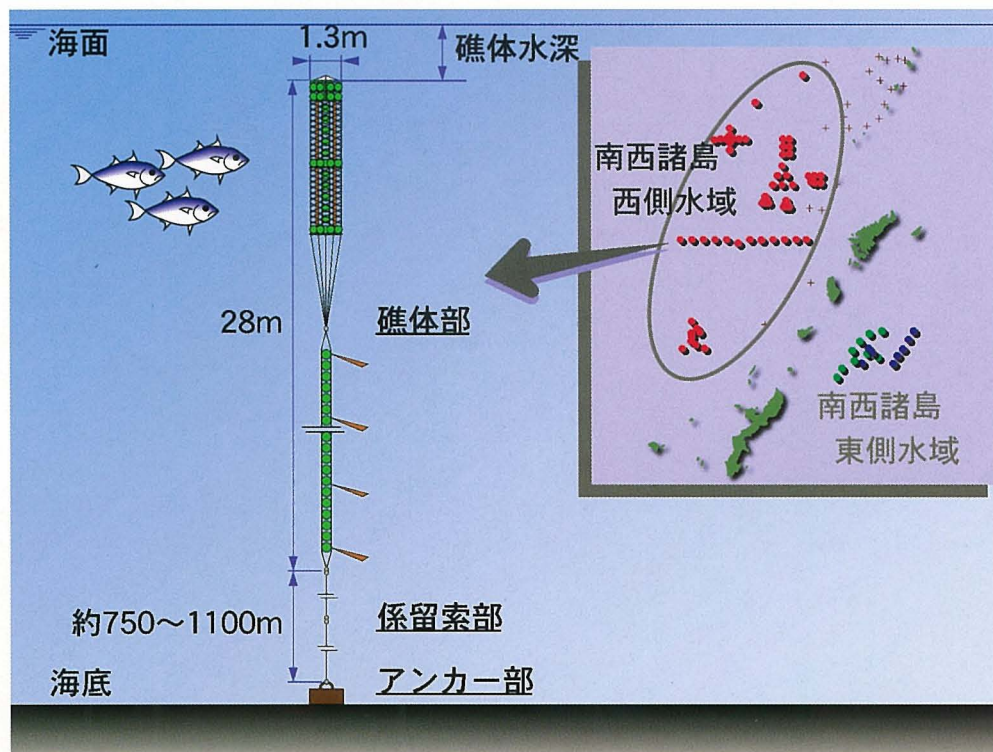
我が国における、表層性魚類（マグロ・カツオ類）を対象とした浮魚礁（海面もしくは海面近くに設置した魚礁）の開発試験のほとんどは、浮魚礁の耐久性の向上などを目的とした研究であり、効果的に魚類を集めるための手法に関する研究はほとんど行われてきませんでした。

そこで、開発調査部の前身である海洋水産資源開発センターの時代に、表層釣り漁業（カツオ一本釣りや曳縄など）のための漁場を造成する手法を確立することを目的として、南西諸島周辺水域において、マグロ・カツオ類を対象とした調査を開始しました。

浮魚礁には表層型と中層型があり、調査を開始した昭和62年度から5カ年間は表層型を主体に使用し、平成4年度からは耐久性に優れ、船舶の航行の障害にならない利点を持つ中層型を使用して、浮魚礁の適正な配置方法を確立することを目的とした沖合の漁場の造成に関する事業を平成8年度まで行いました。この調査では、南西諸島周辺水域において安定した中層型浮魚礁漁場を造成するためには、i) 浮魚礁を黒潮流域の東縁付近またはこれ以東に設置する必要があること、ii) 浮魚礁の礁体までの水深を100 m以浅とする必要があること、iii) 浮魚礁間の



図1. 事業実施水域と対象魚種



設置間隔は魚類集効果に影響を及ぼさないこと、の3点を明らかにしました。

平成9年度から平成11年度までは、浮魚礁漁場の効果的利用方法を確認することを目的として沖合に造成した漁場の有効利用に関する調査を行い、i) 南西諸島周辺水域において操業する当業船は漁獲の4割以上を浮魚礁に依存していること、ii) 特に、船齢が古く相対的に小型の船は、この水域にほぼ周年とどまって漁獲の5割以上を浮魚礁において得ることにより、経費に見合う収入を得ていることを明らかにしました。このことは、船齢が古く相対的に小型の船が、大型の新鋭船との競争を避けながら経営を成り立たせてゆく上で、浮魚礁漁場が重要な役割を果たしていることを示唆するものです。

平成12年度からは、それまでの成果を踏まえて、これまで漁場として有効に利用されていなかった前述の浮魚礁周辺の水深2,000~3,000mの深い海域において、浮魚礁を設置することによる漁場拡大の可能性を検討することを目的として、水深が深い海域の漁場造成に関する事業

を実施中です。現在、i) 水深が深い海域に設置した中層型浮魚礁の操業1回当たり漁獲量は、既存浮魚礁漁場（平成9~11年設置の中層型浮魚礁）と同等若しくはそれ以上の漁獲があること、ii) 南西諸島周辺水域において操業を行う近海カツオ一本釣り船及び曳き縄船は船により漁獲依存度にばらつきはあるものの中層型浮魚礁を重要な漁場として利用していること、が明らかになりつつあります。



図3. 調査船 (69トン型の近海カツオ一本釣り漁船)